

# ガルバシールド®XPT

CREDENCE

犠牲陽極材 — 鉄筋防錆型（マクロセル抑制）

従来型 XP の新形状

「ガルバシールド XPT」は、高い防食性能を維持できる亜鉛形状と高アルカリ性バックフィル材で形成される犠牲陽極材です。従来型の XP 形状を改良し施工性を向上させています。また、長期的な犠牲陽極材の防食性能は亜鉛量だけでなく、バックフィル材（亜鉛促進剤）の鉄筋に対する品質（塩化物、臭化物を含まない）も非常に重要な役割を担います。

## 特長

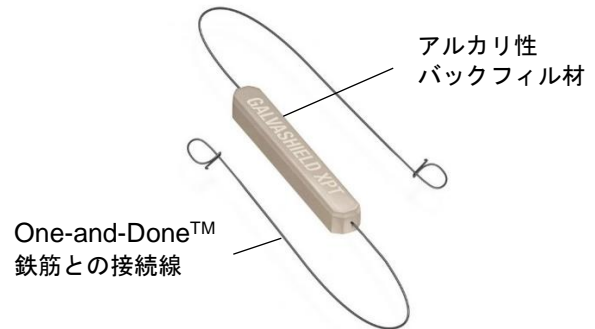
- 特許技術 & 20年の実績
- 防食性能  
亜鉛形状と高アルカリ性バックフィル材により長期的に安定した防食が可能です。
- バックフィル材（亜鉛促進剤）  
犠牲陽極材による長期的防食性能は、バックフィル材の成分が鉄筋腐食を促進させる塩化物、臭化物を含まないことも重要です。
- 防食効果  
マクロセル抑制により、ライフサイクルコストの低減を計れます。
- 施工性  
新形状と接続線によって、設置時間が 40%短縮され、より迅速な取付けが可能です。
- メンテナンスフリー  
電源設備など維持管理費用は必要ありません。
- 耐用年数 約 15 年  
耐用年数は腐食環境により前後することがあります。

## 仕様

### 適用範囲

防食レベル	定義	XPT
鉄筋防錆 (マクロセル)	新しい腐食の発生を防ぐ	○
腐食抑制	進行中の腐食を抑制する	—
電気防食	進行中の腐食を止める	—

### 形状



### 形状

製品	亜鉛量	サイズ
XPT	60g	23×25×100mm

※サイズは標準値で製品には公差があります。

### 防食性能

XP = XPT < CC < XP2 < XP4 < DAS / FUSION

※施工時に潮位の影響を受ける場合はご相談下さい。

### 設置間隔

設置間隔は、防食対象部の鉄筋比率（鉄筋表面積とコンクリート表面積）、および塩化物イオン量により決定します。

< 断面修復部への適用 >

設置間隔表 (塩化物イオン量 2.4kg/m <sup>3</sup> 未満)	
1m <sup>2</sup> 当りの鉄筋比率	XPT 最大設置間隔
<0.3	750mm
0.31-0.6	610mm
0.61-0.9	500mm
0.91-1.2	450mm
1.21-1.5	400mm
1.51-1.8	350mm
1.81-2.1	300mm

※有効半径は、設置間隔÷1.5です。

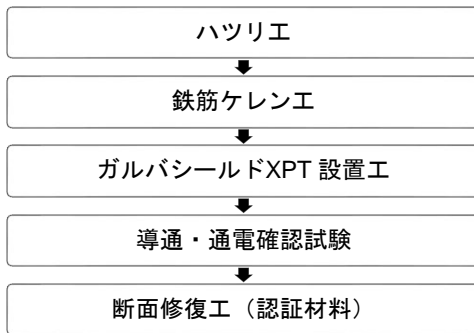
※塩化物イオン量が 2.4kg/m<sup>3</sup> 以上の場合、および鉄筋腐食が懸念される健全部への適用はお問合せ下さい。

### 断面修復材

断面修復は、比抵抗およびガルバシールドの防食性能を確認済みの認証材料（モルタル、無収縮など）で行います。

## 施工方法

### ■ 施工フロー

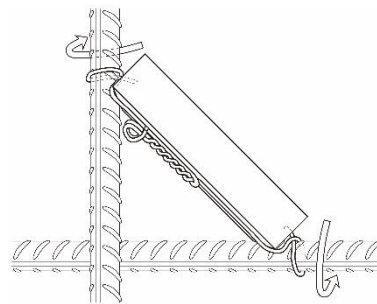


### ■ 施工手順

- ① ハツリエ
  - ・ 鉄筋裏側までコンクリートハツリ取って下さい。
- ② 鉄筋ケレン工
  - ・ 鉄筋の錆等をサンダー、サンドブラスト、ワイヤーブラシ等で除去して下さい。
  - ・ 特に「ガルバシールド XPT」結束箇所はサンダー等で金属光沢がでるまでケレンを行って下さい。
- ③ 設置工
  - ・ 「ガルバシールド XPT」接続線と鉄筋を密着させ固定して下さい。
  - ・ 「ガルバシールド XPT」設置後、コンクリート表面まで 20mm 以上のかぶりを必ず確保して下さい。
- ④ 導通・通電確認試験
  - ・ マルチメーターにて、「ガルバシールド XPT」接続線と鉄筋の抵抗が 1.0Ω 以下であることをすべての設置箇所ですべての確認して下さい。
- ⑤ 断面修復工
  - ・ 断面修復には、比抵抗およびガルバシールドの防食性能を確認済みの認証材料（モルタル、無収縮など）を使用して下さい。
  - ・ 認証外の断面修復材は、設置間隔や防食範囲など想定する効果が発揮できない恐れがあり、防食性能を満足しません。

※詳細は施工要領書を参照下さい。

### ■ 設置例



## 荷 姿

20 個／箱 もしくは 50 個／箱

## 保管上の注意事項

- 保管は直射日光を避け、冷暗所で保管して下さい。
- 保管時に本品が水に濡れないよう注意して下さい。

## 安全衛生上の注意事項

- 強いアルカリ性を有しますので、マスク、保護メガネ、ゴム手袋等の保護具を着用して下さい。
- 目に入った場合は、直ちに清浄な水で十分洗浄し専門医の診断を受けて下さい。
- 皮膚に付着した場合は、直ちに大量の水で洗浄して下さい。